

環境学習研修プログラム  
クニマスから学ぶ未来



秋田県仙北市

## 仙北市環境学習研修プログラム 「クニマスから学ぶ未来」

### C o n t e n t s

クニマス絶滅までの経緯 04

クニマスは世界中で  
田沢湖だけに生息していた、  
貴重な魚だった 06

クニマスは  
誰でもとることが出来た？ 09

絶滅から搜索 10

TOPICS トピックス  
再生可能エネルギーと仙北市 11

クニマスから学ぶ  
田沢湖環境学習 12

体験活動  
おすすめプログラム一覧 14

企業用プログラム  
モデルコース 16

辰子姫伝説 19

### 参考文献

「クニマスと共に～過去から未来へ」  
山梨県立博物館

「田沢湖 まぼろしの魚 クニマス百科」  
秋田魁新報社

へー！ほんと?! びっくりクニマスガイド  
つなぐNPOまちミュー友の会



表紙写真

平成25年3月10日～24日に開催された「クニマス里帰りプロジェクト特別企画展」。山梨県西湖で発見されたクニマスの稚魚が元気に泳ぎ、連日多くの見物客でにぎわいました。早く大きくなったクニマスの姿が見てみたいですね。

# これからの未来を考え・創る 『きっかけ』を 秋田県仙北市が担いたい

私たちは今後、  
環境学習がますます  
重要になると考えています

地球温暖化、生物の絶滅、気候変動...毎日のようにニュースで取り上げられています。また、先の東日本大震災では、私たちの生活がいかにたくさんの資源やエネルギーの上に成り立っているのか気付きました。これから日本や地球の未来を担う生徒たちは、自然と人間の関わりを学び、考え、行動する学習(環境学習)がますます重要になると考えています。

旅のチカラ = ヒト、モノ、ココロ  
を動かすチカラ!

「修学旅行で環境学習は時間が短すぎるのでは」と思われるかもしれませんが。私たちは『旅』は、ヒト、モノ、ココロを動かすチカラがあると考えています。修学旅行は普段の空間から離れる、非日常空間。だからこそ学べること、心に響くことがあるのではないかと、子どもたちを動かすきっかけになるのではないかと、そう考えています。その生きた教本がクニマスです。仙北市でクニマスの絶滅と再発見から、環境について改めて考えてみて下さい。

## 自然災害、戦争、 そして人為的な環境の変化が 起きた田沢湖

かつては、流入する川が少ないことから北海道の摩周湖に迫る31mの透明度があり、生物も豊富であったさこ 田沢湖の昔の呼び名。この近くを流れている大河が、強酸性の玉川温泉を水源のひとつに持つ玉川です。酸性が強く、農業などに使うのが困難なため、酸性を弱める取り組みは、江戸時代から続いていましたが、昭和の初めまで十分な施設は出来ていませんでした。

昭和5年頃、玉川電力会社が田沢湖に玉川の水を引き込みダムのようにし、下流側で発電に利用する計画をたてました。この計画は強酸性水が田沢湖で薄まることで、下流では水田開拓も可能になるという大きなメリットもありました。しかし一方で、強酸性の水が湖に流れ込む事は、田沢湖に生物が生息できなくなる事を意味し、湖畔で漁を行って生計をたてていた人々は不安に思っていました。

その後、数年の間に日本は戦争に突入、さらに東北地方を大凶作が襲ったことから、戦時体制を支えるため、昭和12(1937)年、当時の農林省(今の農林水産省)が2,500ha(ヘクタール)に及び農地開拓、東北振興電力株式会社が電源開発を担い、田沢湖開発事業を行う事を決めました。漁業組合との間では漁



業補償問題も起こりましたが、最後は国策だということで補償は受諾されました。

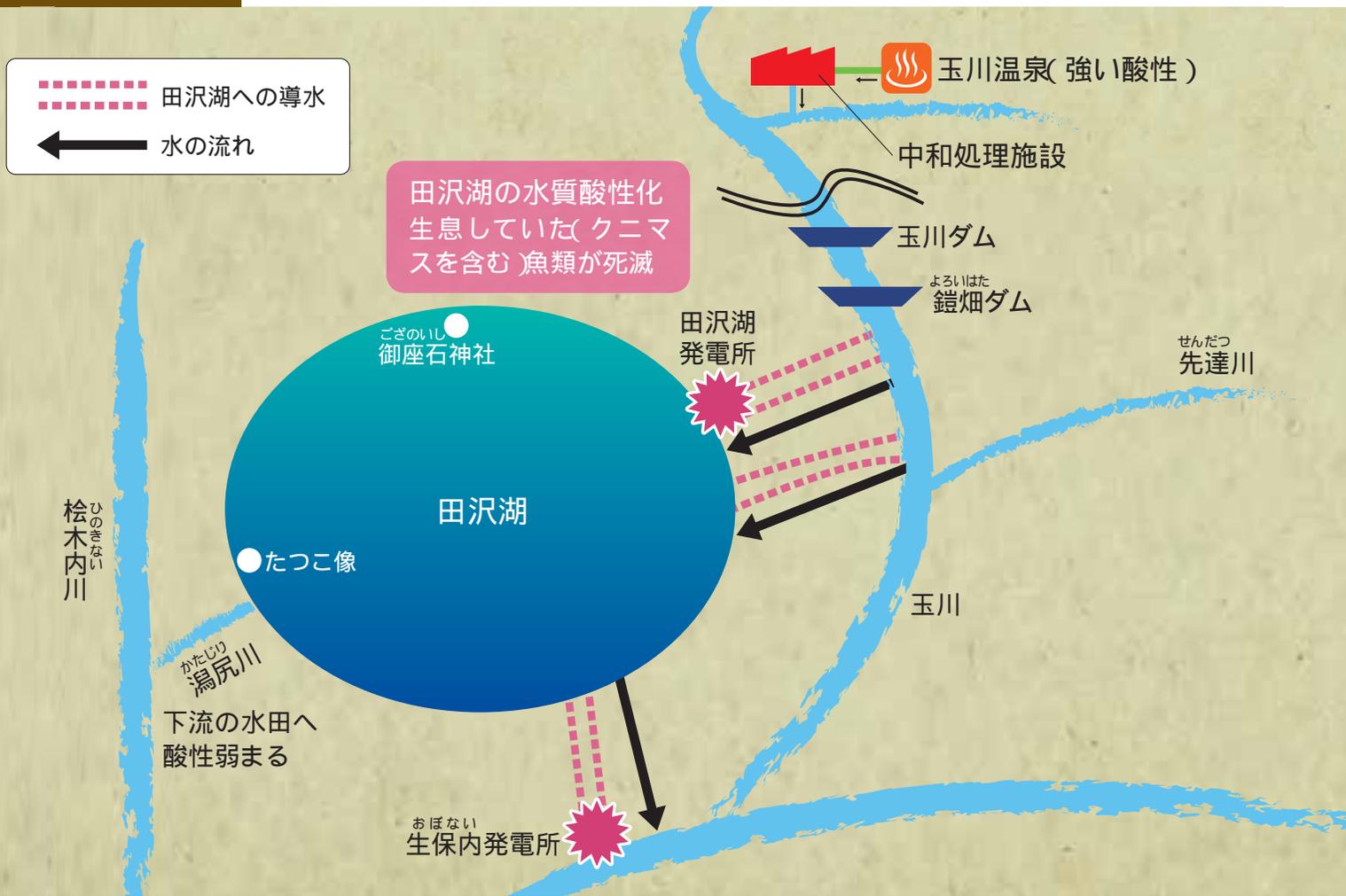
昭和15(1940)年1月、工事は着工されクニマスの唯一の生息地である田沢湖に玉川の水が注入されました。魚類はほとんどが死滅してしまい、現在の田沢湖には、酸性に強いとされるウグイ以外の魚類はほとんどいないとされています。

### 考えてみよう

田沢湖をダムとして使う事を決断したのはどうしてだろう  
田沢湖に玉川の水を入れたことによって地元の人にどんな影響があったのだろう

## 田沢湖周辺地図

もともとの田沢湖は弱酸性のpH6.8でした。田沢湖開発時は玉川温泉のpH1.1～1.2という強酸性水が直接玉川に流れ込んでいましたが、平成元年に温泉の直下流に中和処理施設を作り、現在はpH4.6程度まで中性(pH7.0)に近づけてから玉川に放流しています。玉川には支流からの流入もあるため、田沢湖に流入する頃にはpH5.8程度まで中性に近づいていますが、クニマスなどが生息できる環境は、まだ取り戻せずにいます。



## クニマスは世界中で田沢湖だけに生息していた、貴重な魚だった

クニマスは大正14年(1925年)初めて世界の魚類学会で紹介されました。動物学者で「日本淡水生物学」を著した京都帝国大学の川村多實<sup>かわむらたみじ</sup>二教授のもとへ訪れたアメリカ・スタンフォード大学のデイヴィット・スタア・ジョルダン教授。川村教授からヒメマスと似た魚であるクニマス3匹の標本を託されたジョルダン教授がそれを分析した結果、世界でただ一箇所、田沢湖だけに棲む魚と判明したのです。

このことから、クニマスの世界共通の学名は、川村教授の名前を取って「オンコリンカス・カワムラエ」と名付けられました。

### クニマス

一生を湖でくらす。水深30～40mより深く、水温4℃の湖底で産卵。  
クニマスの産卵期 冬～早春(ヒメマスは秋)

その後クニマスの卵は、山梨県からの依頼を受け、ヒメマスの棲む西湖に10万粒が送られたほか、長野、山梨、富山の三県にも卵60万粒が送られたとの記録が残っていますが、それ以降の生息については長い間確認されておらず、田沢湖開発と共にクニマスは絶滅したと考えられてきました。



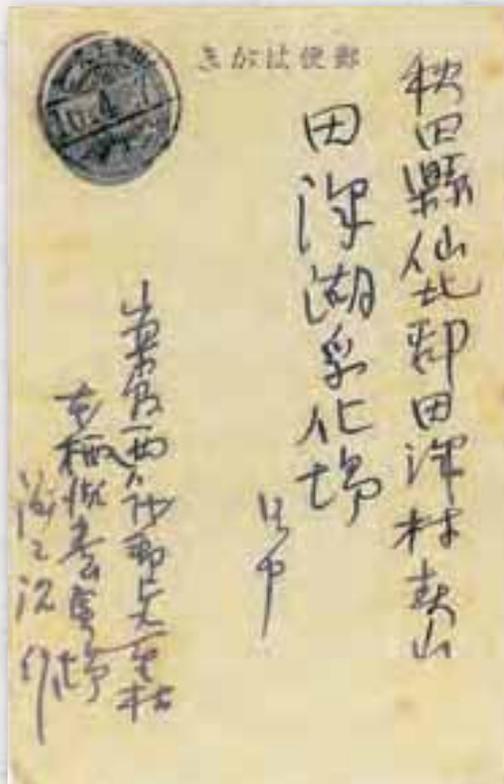
## どうやって西湖に卵が届けられたのだろう

明治から昭和初期にかけては孵化事業に対して積極的な時代で秋田県の補助事業もあり、県の水産試験場から技師を派遣してもらったりもしていたといえます。クニマスは当時、山梨県から秋田県に依

頼があり、県をとおして田沢湖の榎湖<sup>さくこ</sup>漁業組合から出荷されました。木箱にミズゴケをしきつめて発眼した一番強い状態のものを国鉄(日通)で1週間かけて送ったといわれています。10万粒送ったうち、死滅

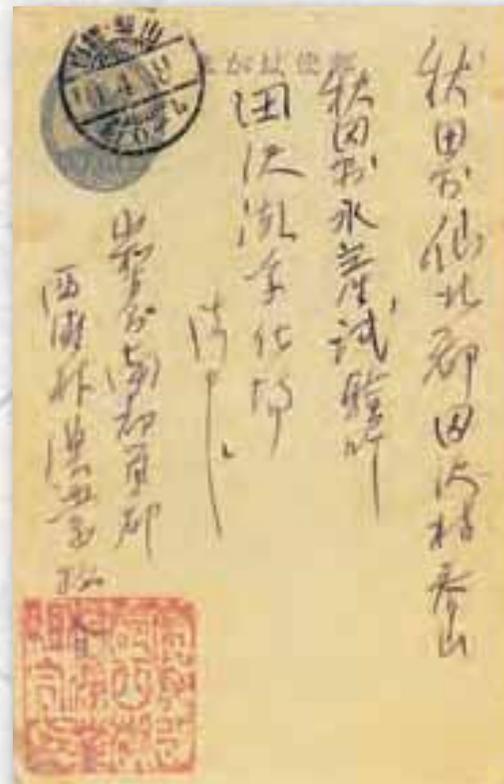
したのは270粒ぐらいだったといえます。現在西湖で生息しているクニマスはこの時送った卵から孵化したクニマスの子孫と考えられています。

現在も仙北市から山梨県に卵を送った時の手紙や受領証などが多く残されています。(当時の資料から)



秋田県仙北郡田沢村秋山  
田沢湖孵化場  
山梨県西八ヶ岳町上野村  
本栖湖養魚場  
田沢湖孵化場  
昭和十年四月七日

本栖湖養魚場から田沢湖孵化場に昭和10年4月7日に届いたはがきです。  
「山梨県から斡旋された卵が4月4日に無事に届きました。死卵が400～500粒しかなく成績がすごぶる良いです。荷づくり、精選がよかったおかげです。ありがとうございます」と書いてあります。



秋田県仙北郡田沢村秋山  
田沢湖孵化場  
山梨県西八ヶ岳町上野村  
西八ヶ岳町上野村  
昭和十年四月九日

西八ヶ岳町上野村から田沢湖孵化場へ昭和10年4月9日に届いたはがきです。  
「3月29日に送った卵ですが3月30日に無事に富士河口湖駅へ届きました。死卵270粒。代金は山梨県と相談して支払う」と書いてあります。

田沢湖から西湖へクニマスの卵を10万粒送った時の荷物受領証(当時の資料から)

荷物受領証				No.	
貨	種	数	名	品	名氏所住主荷受
光輝	富士青魚	10万粒	活魚卵	光輝	山形県西川郡 西川町 西川 光輝殿
要	額	別	費		
					秋田縣生保内驛前

右貨物正ニ受領運送規定ニ基キ發送可仕候也  
昭和10年10月29日  
秋田縣生保内驛前  
生保内代理店

荷物受領証				No.	
貨	種	数	名	品	名氏所住主荷受
光輝	富士青魚	10万粒	活魚卵	光輝	山形県西川郡 西川町 西川 光輝殿
要	額	別	費		
					秋田縣生保内驛前

右貨物正ニ受領運送規定ニ基キ發送可仕候也  
昭和10年10月29日  
秋田縣生保内驛前  
生保内代理店

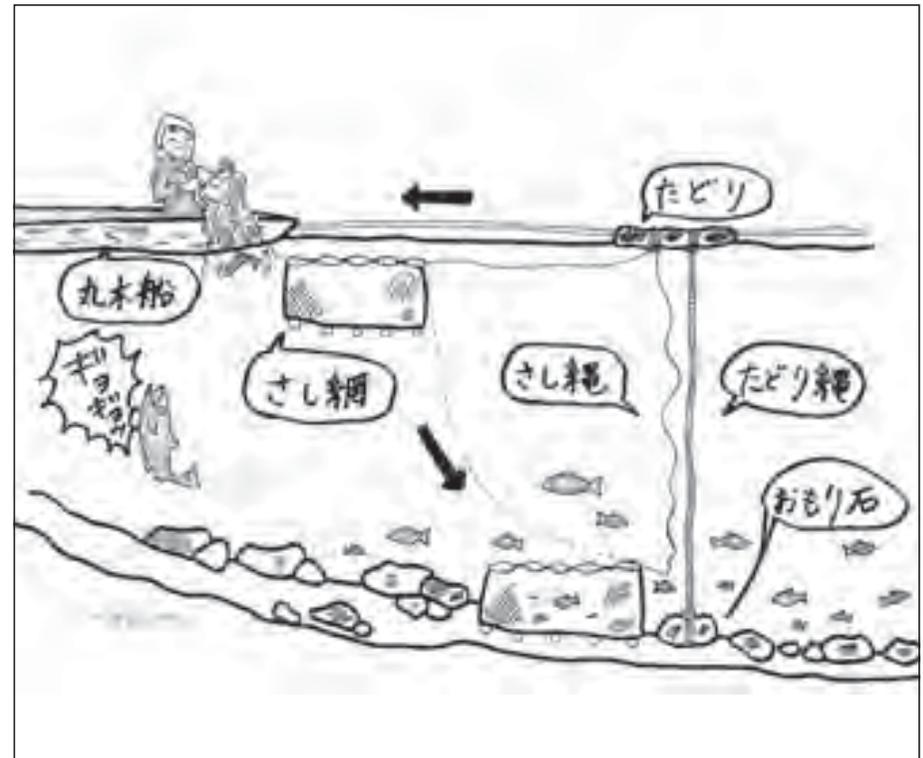
## クニマスは 誰でもとることが出来た？

漁業権を持っているのは湖畔にすむ65人しかいませんでした。クニマスはさし網で漁獲していて絹糸を使って網を作っていたので、当時は養蚕業を行う人も地元にもいました。

水深が深いところにすむクニマスはその漁法にも特徴があり、「たどり」という浮き木に「たどり縄」で「おもり石」を縛りつけ湖底に沈めておきます。次に「さし縄」と言うもう一つの縄を「さし網」に結びつけるのです。さし縄は、網を上げたり、降ろしたりするときにとっても重要でした。

また、クニマス漁で重要なのはホリ(漁場)の位置でした。

魚をとるためのホリは江戸時代から代々相続されているもので、昔から「田は分けてもホリは分けるな」と言われているほど、重みのあるものだったと言われています。



### 1匹に米1升の値がつくほどの高級魚だったクニマス

クニマスは、白身の魚で、淡泊な味だったといえます。「病人や出産後の女性の体にもよい」といわれていました。旅館では、田沢湖名物として宿泊客に提供していて、専門の行商の方もいたと言われてい

ます。  
又、当時は、値段が高いことや大きさがそろっていることから、正月や祝いごとなどの特別な日に食べる高級魚でもありました。

大正8(1919)年の調査によると、クニマス1匹の値段は、25銭。当時米1升は25銭。クニマスは、庶民の口には、入らない高級魚だったので。

# 絶滅から搜索

田沢湖畔に住む「三浦久兵衛さん」  
クニマスに関する記録書を整理、研究

クニマスの卵が1935年(玉川導水工事以前)  
西湖や本栖湖に送られていたことを確認

1986年に本栖湖などを搜索 残念ながら発見できず

1995年  
(社)田沢湖町観光協会  
「クニマス探しキャン  
ペーン」開始

懸賞金100万円  
1997年から500万円

1998年キャンペーン  
終了

残念ながらクニマス  
は発見されませんでした

(社)田沢湖町観光協会  
「クニマス探しキャンペーン」  
ポスター



## しかし、生きていたクニマス

2003年「クニマス百科」著者、秋田県の杉山氏がクニマス標本の観察に京都大学を訪問。

「クニマス百科」を受け取った京都大学の中坊教授が興味を持ち、CGによるクニマス復元計画を思い立つがうまくいかず。

クニマスの体色について聞き取り調査し、それを塗り絵で表現する「体色復元プロジェクト」に取り組む。

標本をもとにタレントのさかなクンからクニマスの下絵を描いてもらうことに。参考のためヒメマスを取り寄せるよう助言。

さかなクンに西湖から黒いヒメマスが届く。不思議に思いながら絵を描こうとしたところ、中坊教授もそのヒメマスに疑問をもつ。

ヒメマスを送った西湖漁協の協力を得て中坊教授が研究したところ、文献上のクニマスの特徴と黒いヒメマスの特徴が生態的に一致。

西湖から取り寄せた黒いヒメマスは「クニマス」であると確認、2010年12月15日に新聞などで報道。

現在、クニマス発見を機に仙北市は、「クニマス里帰りプロジェクト」を始動。2011年11月には、西湖・田沢湖姉妹湖提携調印式が行われました。

# TOPICS

トピックス

## 再生可能エネルギーと仙北市

### 木質バイオマス発電

#### 秋田スギバイオエネルギーセンター

バイオマスの1つである木材チップから取り出した可燃性ガスを燃焼させて発電する施設です。

森林資源を使った地産地消のエネルギーであり、カーボンニュートラルなためCO<sub>2</sub>を増加させず地球温暖化対策にもつながります。



### 電気自動車

#### 市公用車・充電スタンドの設置

仙北市役所の公用車では、電気の力だけで走る電気自動車を2台採用しています。このほか、市内数カ所に充電スタンドが設置されており、市民はもちろん旅行者にも利用してもらえるように環境が整備されています。



### 水力発電・小水力発電

#### 玉川ダム・玉川発電所ほか

玉川をダムで堰き止め、放水時のエネルギーでタービンを回して発電する水力発電所です。

仙北市内には県内一の発電量を誇る生保内発電所などおよそ10箇所の水力発電所があるほか、2012年からは農業用水路に産官学連携で開発・設置した小水力発電の実証試験も始まっています。



### 酸性水の中和処理

#### 玉川酸性水中和処理施設

毎分8,400リットル、pH1.1～1.2、源泉温度98℃の玉川温泉の大噴(おおぶけ)。この施設では、湧き出る強酸性水の95%を石灰石を用いて中和処理し、酸性度を弱めて玉川に放流しています。これにより下流の河川環境への影響を抑えることで、水力発電や農業用水への利用を可能なものとしています。





# クニマスから学ぶ田沢湖環境学習

田沢湖では絶滅してしまったクニマスを切り口に、湖の自然環境、人間と自然の関係について学び、話し合い、行動するまでを一通り体験できるコースです。

● 現場を見る

## 田沢湖の見学 遊覧船



遊覧船に乗って田沢湖の見学をします。水の様子、湖畔の様子などを実際の現場で確認します。

ねらい 動機づけ

場 所：田沢湖内(遊覧船)  
所要時間：20分

● 学ぶ・気づく

## 田沢湖のじっちゃんの話 田沢湖・クニマスについて



田沢湖では絶滅してしまったクニマスを切り口に、湖の自然環境、人間と自然の関係について、田沢湖の近くに住む地域の方からお話しを聞きます。

ねらい 環境への意識向上

場 所：田沢湖周辺施設(人数による)  
所要時間：30分



仙北市では様々なプログラムを通して環境について学ぶ事ができます。詳しくは農山村体験デザイン室までお問い合わせ下さい。

● 気付きをもとに  
理解を深める

## 振り返り



じっちゃんの話の気づきを元に、そのままの部屋で人と自然の関係などについて考える時間を持つことができます。

ねらい 環境への意識向上

場 所：田沢湖畔周辺施設(人数による)  
所要時間：60分

● 気付きをもとに  
体験する

## 体験活動



人と自然の問題に気づいた生徒の興味が冷めないうちに、仙北市内の自然環境に関する体験や見学を行うことができます。

ねらい 自主的・実践的態度を身につける

場 所：仙北市内  
所要時間：プログラムによる

体験活動は次のページからチョイス

## 体験活動おすすめプログラム一覧（どの体験も自由に組合せ可能です）

### 「田沢湖」を 体験する・学ぶ

湖のカヤックや周辺の森でのサイクリングなどで、田沢湖そのものに接し理解を深めます。



#### 水深日本一の田沢湖カヌー&カヤック

水深日本一の田沢湖でカヌーをします。水上の視点から湖の自然を観察することで新たな発見が生まれます。安定感のあるカヌーを使用するため初心者でもすぐに楽しめます。

場所：田沢湖 所要時間：2時間～半日  
人数：10～40人 季節：4月下旬～11月上旬  
料金：3,000円～4,000円/人(用具レンタル、保険含む)

#### 手作りいかだ体験

木やゴムチューブ、ロープを使って「いかだ」を作ります。そのために必要なロープワークもしっかり学びます。完成した「いかだ」で田沢湖に漕ぎ出します。

場所：田沢湖 所要時間：3時間  
人数：10～40人 季節：4月～11月  
料金：3,500円/人

### 「水」を学ぶ

田沢湖に注ぐ玉川の支流にある施設見学や下流の自然体験などを通して水をテーマに学びを深めます。



#### 玉川温泉の見学

案内人同行のもと、日本一の湧水量・強酸性水が吹き出す場所を見学します。玉川温泉は玉川の水源の1つで田沢湖の歴史に深く関係している場所です。

場所：玉川温泉 所要時間：30分  
人数：最大100人 玉川中和処理施設との組み合わせの  
ローテーションにて可能  
季節：4月～11月 料金：無料

#### 原生林に行く夏瀬渓谷ツアー

田沢湖の下流の玉川の両側に広がる手つかずの原生林を眺めながら、カヌーで漕ぎ進みます。すばらしい大自然との一体感が味わえます。

場所：夏瀬渓谷 所要時間：半日  
人数：10～20人  
季節：4月～11月(春、秋限定)  
料金：5,500円/人

### 湖に関わりの深い 「森」や「木」について学ぶ

森の湖「田沢湖」に注ぐ水。その水源の森にも水にかかわる大切な役目があります。特に、田沢湖エリアにあるブナ林は保水力が高いと言われ、学習素材に最適です。森の中を流れる川や仙北市内の森の利用の木質バイオマスについてのプログラムもあります。



#### ブナ林に学ぶ

乳頭温泉郷の周りには、なかなか気軽に見る機会が少ないブナの二次林が広がっています。田沢湖に流れる水を生み出すブナ林の木の特徴や水保全能力などを学びます。

場所：休暇村乳頭温泉郷 所要時間：2時間  
人数：200人 季節：4月～11月  
料金：5,000円/50名  
繁忙期20,000円/50名(要休暇村宿泊)

#### 炭から作る消臭剤・虫よけスプレー

豊富な森林資源でかつての木炭の生産量が日本一だった仙北市西木地区。炭焼き窯で焼いた木炭や木酢液を使って天然素材の消臭剤や虫よけスプレーを作ります。樹木や炭の性質、地域の文化などについて学ぶこともできます。

場所：かたまえ山森林公園  
所要時間：2～3時間  
人数：制限なし 季節：通年 料金：1,500/人

料金等は変動することがありますので予めご了承下さい。



### マウンテンバイク

走破性、安定性の高いマウンテンバイクで田沢湖周辺の高原や牧草地、林道を駆け抜け、自然をより深く感じることでできるツアー。山々や田沢湖を望みながら走ります。

場所：田沢湖周辺 所要時間：3時間～  
人数：10～40人 季節：4月～11月  
料金：3,500円/人

### 分校で田沢湖伝説の紙芝居&昔遊び体験

旧生保内小学校瀧分校を復元した懐かしい木造校舎で昔の遊びをしたり、田沢湖伝説を紙芝居で聞いたりしてみませんか？

場所：思い出の瀧分校  
所要時間：2時間～  
人数：5～30人 季節：4月～11月  
料金：500円



### 田沢湖郷土史料館の見学

史料館でクニマスと田沢湖の漁労、田沢湖周辺の狩猟、遺跡資料の展示品を施設の人のお話を聞きながら見学します。

場所：田沢湖郷土史料館  
所要時間：30分～  
人数：50人 季節：4月～10月  
料金：無料



### 玉川中和処理施設の見学

玉川の強酸性水を石灰石を使い中和している施設の見学をします。施設内では化学式を使い、中和の仕組みを知ることができます。

場所：玉川温泉 所要時間：30分  
人数：最大100人  
玉川温泉との組み合わせのローテーションにて可能  
季節：4月～11月 料金：無料

### 玉川ダムの見学

普段見ることができないダムの内部の様子を見学します。人々が安全で豊かな生活をするためのダムの役割を知ります。

場所：玉川ダム 所要時間：1時間  
人数：最大100人  
(1グループ30名のローテーションで対応)  
季節：4月～11月 料金：無料



### 水力発電玉川発電所

田沢湖に注ぐ玉川の水压で電気を作る水力発電の施設の見学をします。

場所：玉川発電所  
所要時間：30分  
人数：最大100人  
(1グループ30名のローテーションで対応)  
季節：4月～11月 料金：無料



### 岩魚のつかみ取り体験

乳頭温泉郷の施設内でクニマスに味が近いとされる川魚・岩魚のつかみ取り体験を行います。串にさして炭火で焼いて食べることもできます。

場所：休暇村乳頭温泉郷  
所要時間：30分～2時間  
人数：1回40人 料金：1,500円/人

### 秋田スギバイオエネルギーセンターの見学

近年注目を集めている地産地消の自然エネルギーの工場の見学をします。木の流通や廃棄物の再利用を学びます。

場所：秋田スギバイオエネルギーセンター  
所要時間：30分～1時間  
人数：50人(1グループ10名のローテーションで対応)  
季節：通年 料金：無料



### 林業体験

田沢湖の水源の森で、インストラクターの指導のもと、植樹、枝打ち、下草刈り、伐採などの森林作業や薪割り、炭焼き小屋での炭出し作業、シイタケ植菌作業などが体験できます。

場所：仙北市内森林 所要時間：半日～1日 人数：制限なし  
季節：1月～11月 料金：1,500～2,000円/人

## 仙北市では企業向けの研修メニューもあります。

### 日本のタカラモノのような秋田でたっぷり農山村交流プログラム 茅と麦酒編 日本一高齢化県で楽しむ社会貢献

企業用プログラム—モデルコース

農業体験、古民家、地産地消料理など...高齢化世界一の秋田県にある農村で体験しながら楽しく行う農山村交流CSRプログラム( )です。  
CSR...企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動です。

#### 1日目

11:00 JR角館駅 着  
昼食 / 角館散策  
武家屋敷通りの散策をお楽しみください。

14:00 移動  
宿泊地(各農家民宿)到着  
農業体験など体験  
宿泊先の農家民宿(4~5名ずつ)に分かれます。農家民宿とは、農山村の生活や農作業体験ができる宿のこと。宿の方と交流しながら、春から秋までの自然・農業体験などを行います。(水稻・野菜・山菜採り・きのこ採り・林業・雪寄せなど)

夕食(各農家民宿)



#### 2日目

8:00 宿泊地 発

14:00 茅プログラム  
茅葺屋根住宅見学、茅刈り体験(秋)など  
季節によってメニューが変わります  
地元の木材や自然素材のみで作られた低エネルギーな茅葺屋根住宅を見学します。  
家族団らんし、家族の絆を築きながら、家を長く使うための囲炉裏などをはじめとした昔の暮らしや家の作り、地域の文化なども知ることが出来ます。体験と見学のセットで行います。

12:30 昼食 / 温泉(わらび座)  
茅葺屋根住宅見学、茅刈り体験(秋)など

14:30 地産地消麦酒「恵」ビール工場見学  
輸入に頼ってるビールの原料を、秋田で作られた麦とホップ、酵母を使い、輸送CO<sub>2</sub>を減らした低エネルギーな地ビールの工場見学と試飲をします。

16:00 JR角館駅 発

## 秋田美人研修 よくばり美人の2日間 -- 美、癒し、仕事 --

伝統のお菓子づくり、日本有数の秘湯、野菜たっぷりの食事、ていねいな暮らし方。仙北市だからこそできる、体も心も仕事もうるおう、女性限定の研修プログラムです。

企業用プログラム—モデルコース

### 1日目

11:00 JR角館駅着 / 移動(バス)

11:30 宿泊地(各農家民宿)着 / 昼食

13:00 サスティナブルクッキング( ) & プレゼンテーション  
(西木町内農家民宿、かたくり館)

5人1チームになり、農家民宿を運営する母さんたちと協力して、仙北市西木町に伝わるお菓子づくり( )をします。その後、グループごとに全員に対して自分の作ったお菓子をプレゼンテーションします。初めて手にしたお菓子をどう相手に伝えるのか、考え・行動することで営業力UPにつながります。社内のチームビルディング、コミュニケーション力UPにつながります。

この地域では、嬉しい時や感謝したりする時にお菓子(もちっこなど)を作る風習があります。もち1つ1つにストーリーがあります。

説明(10分)

伝統のお菓子づくり(もちっこなど)(110分)

5人1チームになって農家に教えてもらいながらお菓子を作ります。

試食・プレゼンテーションを考える(30分)

試食しながらプレゼンテーションの内容を考えます。

(かたくり館へ移動)

プレゼンテーション(30分)

グループごとに作ったお菓子を全員に対してプレゼンし、感想をフィードバックします。1チーム5分めやす。

会食(10分)全員で作ったお菓子を食べながら、振り返ります。

17:00 終了・移動(バス)

19:00 夕食(各農家民宿)仙北市の郷土料理をご用意します。

### 2日目

7:00 朝のウォーキング(有志)

自然いっぱいの空気の美味しい西木町内で朝のウォーキング。お勧めウォーキングコースのご案内をします。

8:00 朝食

野菜・魚中心の健康的な朝食。1日の活力を養い、朝から体の中から健康に美しくなれます。

9:00 宿泊地出発

9:30 田沢湖 たつこ像 / 御座石神社見学

湖畔にある金色のたつこ像と御座石神社を見学します。

10:30 ハーブミニ知識教室(田沢湖ハートハーブ) (60分)

アロマについての小講義と体験を行います。

12:00 乳頭温泉郷 着 / 昼食

14:00 乳頭温泉郷 発

15:00 JR田沢湖駅 発



サスティナブルクッキング...持続可能な地球環境に資する料理。ここでは地域に伝わる郷土のお菓子等をイメージしています。

チーム作業をすることで、各自の役割確認と相互支援を介して、コミュニケーションの向上を図ることを目的としたメニューです。(冬期限定)

## 1日目

12:00 JR角館駅 着(新幹線内で、紙風船の図柄の作戦会議)  
移動(秋田内陸縦貫鉄道<角館駅~上桧木内駅間>)

13:00 紙風船づくり(西木町上桧木内紙風船館)  
紙風船上げとは...武者絵や美人画が描かれ、灯火をつけた巨大な紙風船が、きらめく星々のごとく真冬の夜空に舞う年中行事です。紙風船は、各自がその年への思いや願いを託し、天に声が届くようにと真冬の夜空に打ち上げます。

説明(10分)  
紙風船の歴史や作り方について簡単に地元の方から説明を受けます。  
紙風船づくり作業(2時間30分)  
チームで協力し合いながら紙風船をつくります。  
各チームの評価(20分)  
全チームを見て回り、最後に投票をし、結果を反省します。  
紙風船打ち上げ(30分)  
最後にひもをつけて紙風船の仮り打ち上げをします。  
ねらい:コミュニケーション力UP・モチベーションUP

17:30 終了・移動(休暇村の送迎バス:35人まで)

19:00 宿泊地(休暇村乳頭温泉郷)着  
夕食(バイキング)秋田の郷土料理をご用意致します。

20:00 エコキャンドルづくり・キャンドルナイト  
エコキャンドルづくり  
てんぷら油の廃油をつかったキャンドルづくりを行います。  
キャンドルナイト  
電気を消して、キャンドルを灯します。  
キャンドルの炎の効果で、リラックスした雰囲気環境を考えた、社員同士の交流を図ったりします。

## 2日目

9:00 宿泊地 発

12:30 スノーオリンピック開催(休暇村近くのスキー場跡地)  
説明(10分)  
チームに分かれて各種目(2時間)  
競技内容  
雪だるま作り 早さとオリジナル性を競います。  
雪上50m走 走りにくい雪の上を走って速さを競います。  
雪合戦 チームで戦略を立てながら、戦います。  
都会ではなかなかできない初めての雪体験とスポーツにより、チーム内のコミュニケーションを活発にし、チームビルディングにつなげます。  
雪の降っている状況によって プログラムを変更する場合がございます。

12:00 温泉/昼食

14:00 JR田沢湖駅発(送迎:休暇村)



# 辰子姫伝説

むかし、神代村(今の仙北市田沢湖)の神成沢(かなりざわ)に辰子(たつこ)という娘がいました。辰子は、雪のような白い肌と黒いひとみの美しい娘で、村の評判でした。



辰子はやがて『いつまでも若く美しくありたい』と思うようになりました。そこで辰子は、夜中になるとそっと家を抜け出し、毎晩かかさず院内岳の大蔵観音に通い百夜の願かけを始めました。こうして迎えた百日目の夜、辰子の前に観音様が現れて言いました。



辰子よ、それほどまで永遠の美しさを願うなら、この山の北に沸く泉の水を飲むがよい。

辰子はそのお告げを心に刻み、北へと進みました。山を越え、沢を渡り、あたりが深いブナの森になった時、日の光に輝く泉を見つけました。うれしさに走り寄った辰子は、白い手を差し伸べて、水を一口、また一口と飲み始めました。ところが、飲めば飲むほどのどが渴きます。ついに辰子は腹ばいになり、水の面に口をつけて、ごくごく飲み続けたのです。



するとどうでしょう。急に空は暗くなり、天地が裂けるような雷がとどろき、激しい雨が降り出しました。あっという間に山は崩れ落ち、あふれ出た水は谷をうずめ、深い湖になりました。湖に映った辰子の姿は、目は炎、歯は杭のよう、体にはうろこが生え、龍になっていました。



母はいつまでも帰らない娘を探し、辰子の名前を呼びながら山や谷をさまよひ、歩きました。やがて湖にたどり着きました。



お母さん、お許し下さい!...。私は永遠の美しさを観音さまにお願いしたのです。でも、龍の姿になってしまいました。もう水から離れて暮らすことができません。この湖の主として暮らします。そのかわり、この湖を魚でいっぱいにします。どうぞそれを毎日食べてください。

言い終えると、湖の奥底に姿を隠してしまいました。

母は泣きながら、手にしていた木の尻(きのしり)・秋田弁で松明(たいまつ)の(こと)の燃え残りを力なく投げ入れました。すると不思議なことに、その木の尻はマスとなり、すいすいと湖の中に泳ぎ去りました。このマスは木の尻鱈(キノシリマス)・のちのクニマスと呼ばれています。キノシリマスは長い間この湖で大切にされてきました。





仙北市農山村体験デザイン室 TEL 0187-43-3353

■住所 〒014-0512 秋田県仙北市西木町上荒井古堀田47

■ブログ <http://sembokugt.exblog.jp/> ■ツイッター @semboku\_gt